

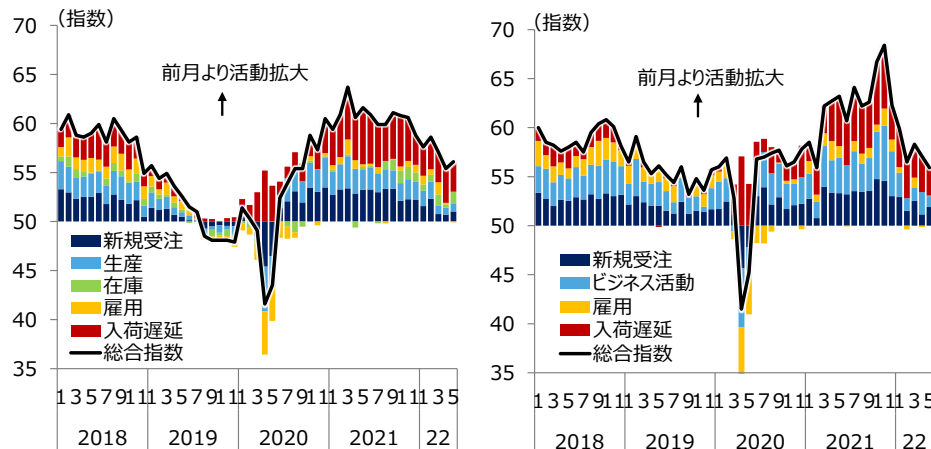
米国

ISM景況指数（2022年5月）

供給要因で経済活動に減速感、先行きは需要要因による下押しも

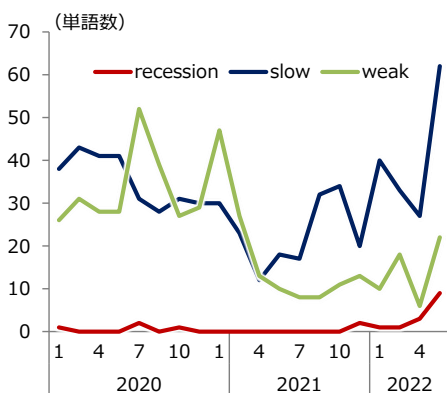
政策・経済センター
田中高大
03-6858-2717

1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）



注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所：Institute for Supply Management® より三菱総合研究所作成

2 地区連銀報告の単語数



注：単語数は、その文字列を含む単語もカウントしている。
(例えば「weak」は「weakness」「weaken」もカウント、
[nonrecessionary]のような逆の意味の単語は除外)
出所：FRB「地区連銀経済報告」より三菱総合研究所作成

3 家計貯蓄率



注：過剰貯蓄は19年平均を上回る貯蓄。直近は22年4月。
出所：米国内務省より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年5月のISM製造業景況指数は56.1と3カ月ぶりに上昇した。項目別では、新規受注や生産、在庫が上昇した一方で、雇用、入荷遅延は低下した。特に雇用は9カ月ぶりに50を下回った。サブ項目の仕入れ価格（82.2）は2カ月連続で下落したものの、依然として高い水準にある。
- 約2年ぶりに価格が低下したアルミニウムなど一部を除いて、多くの品目で引き続き前月からの仕入れ価格上昇が報告されている。
- ISM非製造業景況指数は55.9と2カ月連続で低下、21年2月以来の低水準となった。項目別に見ると、ビジネス活動、入荷水準が大きく低下、新規受注と雇用は上昇した。
- 産業別では、農林水産業、小売業、情報通信業で活動が縮小した。

基調判断と今後の流れ

- 米国の経済活動は堅調な需要を背景に拡大を続けているものの、長期化する供給制約や仕入れ価格の上昇が主因となり、特に非製造業において減速感が見られる。
- 先週公表されたFRB地区連銀経済報告でも、3分の1の地域において景気減速が明確に指摘されており、「減速（Slow）」や「景気後退（Recession）」など、景気に対してネガティブな単語数も増加している（図表2）。
- 先行きも供給制約は長期化しよう。ウクライナ侵攻や中国のゼロコロナ政策、感染再拡大、米国内の労働者不足など、企業担当者が挙げている供給制約の要因は多岐に渡っており短期的な解決は難しい。
- 加えて、需要要因による経済活動の下押しも懸念される。4月の実質家計支出は前月比+0.7%と堅調に増加したが、貯蓄率は4.4%と2008年以降の低水準となっている（図表3）。コロナ下で蓄積した過剰貯蓄の取り崩しが進むなか、物価や金利の上昇が進むことで需要が押し下げられる恐れがある。